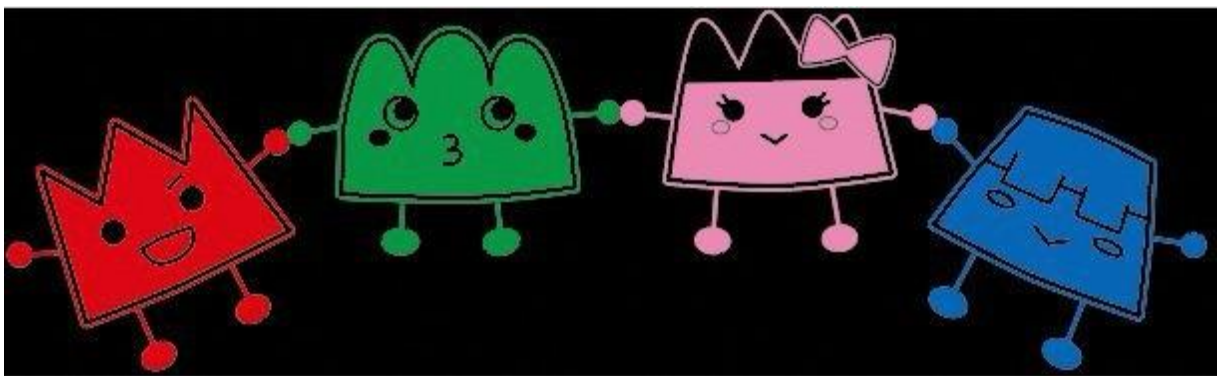


# 山田小スマイルフォーラム資料

## (学校教育説明会)



- (1) 学校経営方針・グランドデザインについて
- (2) 中期学校経営方針
- (3) 学力向上アクションプラン・少人数・教科分担制について
- (4) 豊かな心の育成プラン
- (5) 健やかな体の育成プラン
- (6) 山田小学校児童指導について
- (7) ICT 活用について
- (8) 学校保健について
- (9) 防災・防犯について

【子ども像】

知 自ら学び、よく考え、よりよく解決する子  
 徳 自分やまわりをみつめ、心豊かに生活できる子  
 体 心と体を鍛え、心身共に健全な子  
 公 「ひと」と「まち」とのふれあいを大切に、  
 共に生きる子  
 開 社会の変化に関心をもち、未来をみつめる子

【学校教育目標】

自分がすき  
 友だちがすき  
 まちがすき  
 進んで学ぶ  
 山田の子

【学校像】

笑顔にあふれ、充実感のある学校  
 信頼と協力のある学校

【教師像】

一丸となって連携しながら、個々の力を  
 発揮し、組織を活性化する教師

教育課程

Smile & Challenge

◆アフターコロナにおける  
カリキュラム・マネジメント  
～重点取組の焦点化～

- ① 授業改善 ②多様性の尊重
- ③ 健康教育 ④SDGsへの取組

◆チーム学年経営・少人数指導

- (3年～6年一部教科分担制)
- (1年2年少人数グループ指導)
- ・学力向上(授業改善)
- ・児童の心の安定(複数の教職員の関わり)
- ・1年生スタートカリキュラム

◆「ほんものに触れる」直接体験  
の重視

校外学習・宿泊体験学習・修学  
旅行等の計画・実施

◆社会に開かれた教育課程の推進

- ・「まちが教科書」
- ・出前授業
- ・ゲストティーチャーの招請
- ・保護者・地域との連携

◆GIGAスクール構想・ICT活用

- ・「端末持ち帰り施行校」の取組
- ・一人一台の電子端末の活用
- ・ICTを活用した授業・表現活動
- ・プログラミング授業

◆多様なニーズに応じた教育

- ・個別最適な学び
- ・特別支援教育の組織化
- ・個別的教育支援計画・指導計画
- ・合理的な配慮

◆いじめの防止・早期解決

- ・児童アンケートの実施と対応
- ・子どもの社会的スキル横浜プログラムの活用

「社会に開かれた教育課程」の実現

～よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくる～

学校運営

Communication & Teamwork

多様性

持続可能

SDGs

◆持続可能な学校運営

- ・「働き方改革」推進
- ・ICTの活用(会議の精選)
- ・教科分担による教材研究の軽減

◆電子媒体を活用したペーパーレ  
ス化

- ・学校だより等の発信
- ・校内情報共有システムの活用
- ・アンケート調査
- ・承諾書の電子決済

◆研究日「水曜時程」導入

- ・教材研究への活用
- ・校外研究会への積極的参加

◆スマイルフォーラム(学校説明会)  
入学説明会のリモート発信  
(YouTubeの活用)

◆非常時のリモート授業  
(Google Classroom活用)

◆ホームページの随時更新

- ・緊急メールアプリの活用
- ・児童の様子と教育活動の発信

◆保護者・地域連携

- ・学校評価
- ・東山田中ブロック学校運営協議会
- ・山田小まちごと会との歩む学校づくり懇話会
- ・持続可能なPTA運営

横浜市立 山田小学校 令和4～6年度版 中期学校経営方針 (令和5年度修正)

<p>◎自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子</p> <p>【知】 自ら学び、よく考え、よりよく解決する子を書きます。                  【徳】 自分やまわりをみつめ、心豊かに生活できる子を書きます。                  【体】 心と体を鍛え、心身共に健全な子を書きます。                  【公】 「ひと」と「まち」とのふれあいを大切に、共に生きる子を書きます。                  【開】 社会の変化に関心をもち、未来をみつめる子を書きます。</p>	<p>◎自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子</p> <p>【知】 自ら学び、よく考え、よりよく解決する子を書きます。                  【徳】 自分やまわりをみつめ、心豊かに生活できる子を書きます。                  【体】 心と体を鍛え、心身共に健全な子を書きます。                  【公】 「ひと」と「まち」とのふれあいを大切に、共に生きる子を書きます。                  【開】 社会の変化に関心をもち、未来をみつめる子を書きます。</p>		
<p>創立 52 周年 学校長 藤原 明美 副校長 田村 誠 2 学期制 一級学級: 13 個別支援学級: 3                  児童生徒数: 440 人 主な関係校: 東山田中学校 北山田小学校 東山田小学校</p>	<p>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</p> <p>〈問題解決する力〉                  〈グローバル化の中で生きる力〉</p>	<p>東山田中 ブロック</p> <p>東山田中学校 山田小学校 北山田小学校 東山田小学校</p>	<p>小中一貫教育推進プログラムにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間育てる子ども像」と具体的取組</p> <p>自分を高め、互いを認め合い、人とつながる児童生徒を育てます。                  中学校ブロック4校の教職員の共理解のもと、児童一人ひとりの存在を しっかりと見つめ、よきやよいを認め合い、学校内外の人とのかけがえな く大切な教育活動に取り組めます。</p>
<p>中 期 取 組 目 標</p>	<p>◎主体的、対話的な学習活動のもと、自分の生活や次の学習に生かせる基礎 基本を身に付け、学びを深める教育活動に取り組んでいます。                  ・1年目は、単元全体や1時間単位のあゆみの確認と探究活動の導入、子ども自身が学びや到達段階を意識できるようにします。                  ・2年目は、様々な人とのかけがえなく大切に。協働的な学習活動をより積極的に取り入れ、学習の理解を深めることができるようになっています。                  ・3年目は、身に付けた知識や技能を使って自分の考えを深化させ、よりよく問題解決していく力を育てています。</p>	<p>◎多様性を尊重し、つながりを大切に、た教育に取り組んでいます。                  ・3年間を通じて、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができるよう、自分のよきや他人のよきを認め合える教育活動に取り組めます。</p>	<p>◎主体的、対話的な学習活動のもと、自分の生活や次の学習に生かせる基礎 基本を身に付け、学びを深める教育活動に取り組んでいます。                  ・1年目は、単元全体や1時間単位のあゆみの確認と探究活動の導入、子ども自身が学びや到達段階を意識できるようにします。                  ・2年目は、様々な人とのかけがえなく大切に。協働的な学習活動をより積極的に取り入れ、学習の理解を深めることができるようになっています。                  ・3年目は、身に付けた知識や技能を使って自分の考えを深化させ、よりよく問題解決していく力を育てています。</p>
<p>重点取組分野</p>	<p>知 授業改善</p>	<p>具体的取組</p>	<p>◎対話を大切に、自分の意見を伝えたり、他人の意見を聞いた見ながら、協働的に学ぶことにより、主体的に学んだり                  多様な考えに気づいたりすることができるようにする。                  ◎重点研究テーマを豊かに体験を通して、学びの充実をめざすことし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、人やものと豊                  かに関わりながら育成を図る。</p>
<p>徳 多様性の尊重</p>	<p>◎人権教育の充実を図り、年齢や性別、国籍や文化、障害の有無に関わらず、お互いを大切にする心を育てる。                  ◎差別・活動を通して、自己認識の心を育てる。                  ◎家庭や地域と連携し、進んで参加ができるように、主体的に活動に取り組む。                  ◎児童の中で「できる」「経験」を増やし、自己肯定感を高めるようにしていく。</p>	<p>◎人権教育の充実を図り、年齢や性別、国籍や文化、障害の有無に関わらず、お互いを大切にする心を育てる。                  ◎差別・活動を通して、自己認識の心を育てる。                  ◎家庭や地域と連携し、進んで参加ができるように、主体的に活動に取り組む。                  ◎児童の中で「できる」「経験」を増やし、自己肯定感を高めるようにしていく。</p>	
<p>体 健康教育</p>	<p>◎体を動かす楽しさに気づき、運動時間を増やし、柔軟性や持久力を高めたりしていくように、「ストレッチ集」や「なわ                  とび」の集まりを行う。                  ◎児童生徒委員会や学校保健委員会の活動を通して、運動経験を増やし、生活習慣を整えたりすることが大切だと気付か                  せるようにする。</p>	<p>◎体を動かす楽しさに気づき、運動時間を増やし、柔軟性や持久力を高めたりしていくように、「ストレッチ集」や「なわ                  とび」の集まりを行う。                  ◎児童生徒委員会や学校保健委員会の活動を通して、運動経験を増やし、生活習慣を整えたりすることが大切だと気付か                  せるようにする。</p>	
<p>公 園 SDGsへの取組 組み</p>	<p>◎学年に応じて、SDGsの5つのキーワードや17の目標について知り、関連団体とつながる機会を設定したりして、理解と                  実践を進める。                  ◎学校や地域で行われている活動をSDGsに関連付けてとらえられるようにする。                  ◎学校だけでなく自分たちができることは何かを考え、行動に移していき、いく。</p>	<p>◎学年に応じて、SDGsの5つのキーワードや17の目標について知り、関連団体とつながる機会を設定したりして、理解と                  実践を進める。                  ◎学校や地域で行われている活動をSDGsに関連付けてとらえられるようにする。                  ◎学校だけでなく自分たちができることは何かを考え、行動に移していき、いく。</p>	
<p>いじめへの対応</p>	<p>◎児童生徒や学校のまわりを共通理解で抱きあがり、個に応じた指導についても共有する。                  ◎月回の定期開催に加え必要に応じて立ち回し、防止対策委員会を開く。                  ◎いじめに関するアンケートを年一回以上行い、児童の様子や心構え把握したた教育相談を行った見で解決に向けて力を尽                  す。</p>	<p>◎児童生徒や学校のまわりを共通理解で抱きあがり、個に応じた指導についても共有する。                  ◎月回の定期開催に加え必要に応じて立ち回し、防止対策委員会を開く。                  ◎いじめに関するアンケートを年一回以上行い、児童の様子や心構え把握したた教育相談を行った見で解決に向けて力を尽                  す。</p>	
<p>人材育成・ 組織運営(働き方)</p>	<p>◎中・高学年において教科分担任を推進し、個々の専門性を高める。                  ◎生活科、総合的な学習の時間に重点を置き、単元作りや学習の進め方等について研修を行う。                  ◎心チームを組み、月に一度研修の時間を設定する。                  ◎学校により、学年ごとの発信の仕方を見直し、作戦にかかると時間を短縮していく。</p>	<p>◎中・高学年において教科分担任を推進し、個々の専門性を高める。                  ◎生活科、総合的な学習の時間に重点を置き、単元作りや学習の進め方等について研修を行う。                  ◎心チームを組み、月に一度研修の時間を設定する。                  ◎学校により、学年ごとの発信の仕方を見直し、作戦にかかると時間を短縮していく。</p>	
<p>児童指導</p>	<p>◎いじめの防止に向け、児童生徒や学校のまわりを共通理解で抱きあがり、個に応じた指導についても共有する。                  ◎一人ひとりが大事にされる学校づくりのために、計画的にY-A-F-A-S-C-A-S-T-S-Tを実施し児童の表現活動に努め、学校の                  課題に合わせた社会的スキル構築プログラムを実施する。</p>	<p>◎いじめの防止に向け、児童生徒や学校のまわりを共通理解で抱きあがり、個に応じた指導についても共有する。                  ◎一人ひとりが大事にされる学校づくりのために、計画的にY-A-F-A-S-C-A-S-T-S-Tを実施し児童の表現活動に努め、学校の                  課題に合わせた社会的スキル構築プログラムを実施する。</p>	
<p>地域連携</p>	<p>◎学校運営協議会やまちとも「学び」学校づくり懇話会等での意見交換の内容を反映させながら協働的に学校運営を行って                  いく。                  ◎ゲストティーチャー、アドバイザー等の形で専門の方を招き、地域の教育力を学校教育に生かしていく。                  ◎ホームページや学校だより、定期的な集会等で学校の様子を発信していく。</p>	<p>◎学校運営協議会やまちとも「学び」学校づくり懇話会等での意見交換の内容を反映させながら協働的に学校運営を行って                  いく。                  ◎ゲストティーチャー、アドバイザー等の形で専門の方を招き、地域の教育力を学校教育に生かしていく。                  ◎ホームページや学校だより、定期的な集会等で学校の様子を発信していく。</p>	
<p>特別支援教育</p>	<p>◎一人ひとりの社会的ニーズに応じた学びの場を工夫し、インクルーシブ教育を取り入れていく。                  ◎関係機関との連携を促進し、実践的な支援・指導に努める。                  ◎全校ITの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備など、多面的な支援体制の整備を行う。                  ◎個に応じた指導の形態を工夫する。</p>	<p>◎一人ひとりの社会的ニーズに応じた学びの場を工夫し、インクルーシブ教育を取り入れていく。                  ◎関係機関との連携を促進し、実践的な支援・指導に努める。                  ◎全校ITの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備など、多面的な支援体制の整備を行う。                  ◎個に応じた指導の形態を工夫する。</p>	

【9年間で育てる子ども像(東山田中ブロック)】

自分を高め、互いを認め合い、人とつながる児童生徒

横浜教育ビジョン2030

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」

～多様性を尊重しつながりを大切にされた教育を推進～



山田小学校  
 「レインボーフレンズ」  
 たくましく協力優しい  
 健康明るく楽しい元氣

学校 教育 目標	◎自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子 【知】 自ら学び、よく考え、よりよく解決する子を育みます。 【徳】 自分やまわりをみつめ、心豊かに生活できる子を育みます。 【体】 心と体を鍛え、心身共に健全な子を育みます。 【公】 「ひと」「まち」とのふれあいを大切に、共に生きる子を育みます。 【開】 社会の変化に関心を持ち、未来をみつめる子を育みます。					
	学校概要	創立 52 周年	学校長 藤原 明美	副校長 間杉 誠	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 3
児童生徒数: 440 人 主な関係校: 東山田中学校 北山田小学校 東山田小学校						

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	東山田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈問題を解決する力〉  〈グローバル化の中で生きる力〉	東山田中学校 山田小学校 北山田小学校 東山田小学校	中学校ブロック4校の教職員の共通理解のもと、児童一人ひとりの存在をしっかりと見つめ、よさや違いを認め合い、学校内外の人とのかわりを大切にされた教育活動に取り組みます。  中学校ブロック4校の教職員の共通理解のもと、児童一人ひとりの存在をしっかりと見つめ、よさや違いを認め合い、学校内外の人とのかわりを大切にされた教育活動に取り組みます。

中期 取組 目標	<p>○主体的、対話的な学習活動のもと、自分の生活や次の学習に生かせる基礎・基本を身に付け、学びを深める教育活動に取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は、単元全体や1時間単位のめあての確認と振り返りを確実にし、子ども自身が伸びや到達段階を意識できるようにします。</li> <li>・2年目は、様々な人とのかわりを大切に、協働的な学習活動をより計画的に取り入れ、学習の理解を深めることができるようにしていきます。</li> <li>・3年目は、身に付けた知識や技能を使って自分の考えを深化させ、よりよく問題解決していく力を育てていきます。</li> </ul> <p>○多様性を尊重し、つながりを大切に教育に取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通じて、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができるよう、自分のよさや他人のよさを認識できる教育活動に取り組みます。</li> </ul>
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①対話を大切に、自分の意見を伝えたり、他の人の意見を聞いたりしながら、協働的に学ぶことにより、主体的に学んだり、多様な考えに気づいたりすることができるようにする。 ②重点研究テーマを「豊かな体験を通して、学びの充実をめざす」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、人やものと豊かに関わる力を育成する。
徳 多様性の尊重	①人権教育の充実を図り、年齢や性別、国籍や文化、障害の有無に関わらず、お互いを大切にすることを育てる。 ②縦割り活動等を通して、自他を認め合う心、思いやりの心を育てる。 ③家庭や地域と連携し、進んで挨拶ができるように、日常的にあいさつ運動に取り組む。 ④授業の中で「わかる」「できる」経験を増やし、自己肯定感を高められるようにしていく。
体 健康教育	①体を動かす楽しさに気づき、運動時間を増やしたり、柔軟性や持久力を高めたりしていけるように、「ストレッチ集会」や「なわとび集会」を行う。 ②児童運動委員会や学校保健委員会の活動を通して、運動経験を増やしたり、生活習慣を整えたりすることが大切だと気付けるようにする。
公 開 SDGsへの取り組み	①学年に応じて、SDGsの5つのキーワードや17の目標について知ったり、関連団体とつながる機会を設定したりして、理解と実践を進める。 ②学校や地域で行われている活動をSDGsに関連付けてとらえられるようにする。 ③学んだことから自分たちができることは何かを考え、行動に移していけるようにしていく。
いじめへの対応	①児童情報や学校のきまりを共通理解して指導にあたり、個に応じた指導についても共有する。 ②月1回の定期開催に加え必要に応じて直ちにいじめ防止対策委員会を開く。 ③いじめに関するアンケートを年2回以上行い、児童の様子や心情を把握したり教育相談を行ったりして解決に向けて力を尽くす。
人材育成・組織運営(働き方)	①中・高学年において教科分担を推進し、個々の専門性を高めていく。 ②生活科・総合的な学習の時間に重点を置き、単元作りや学習の進め方等について研修を行う。 ③メンターチームを組み、月に一度研修の時間を設定する。 ④学校だより、学年だよりの発信の仕方を見直し、作成にかかる時間を軽減していく。
児童指導	①いじめ防止に向け、児童情報や学校のきまり、個に応じた指導について共通理解し、指導にあたる。 ②一人ひとりが大事にされる学級づくりのために、計画的に「Y-Pアセスメントシート」を実施し児童の実態把握に努め、学級の課題に応じた社会的スキル横浜プログラムを実施する。
地域連携	①学校運営協議会やまちとともに歩む学校づくり懇話会等での意見交換の内容を反映させながら協働的に学校運営を行っていく。 ②ゲストティーチャー、アドバイザー等の形で専門の方を招き、地域の教育力を学校教育に生かしていく。 ③ホームページや学校だより、定期的な会合等で学校の様子を発信していく。
特別支援教育	①一人ひとりの社会的ニーズに応じた学びの場を工夫し、インクルーシブ教育を取り入れていく。 ②関係諸機関との連携を進め、実践的な支援・指導につなげる。 ③全校TTの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備など、多面的な支援体制の整備を行う。 ④個に応じた指導の形態を工夫する。

## 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
<b>授業改善</b>	①対話を大切にし、自分の意見を伝えたり、他の人の意見を聞いたりしながら、協働的に学ぶことにより、主体的に学んだり、多様な考えに気づいたりすることができるようにする。 ②重点研究テーマを「豊かな体験を通して、学びの充実をめざす」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、人やものと豊かに関わる力を育成する。
担当	重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>昨年6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果から、生活習慣や学習への関心が高く、規範意識や自己有用感が低いことが分かった。特に、ゲームやスマートフォン等を使用している時間が多いこと、「自分にはよいところがあるか」という問いに対して、肯定的に答えた児童の割合が全国や神奈川県と比べて低い傾向にあった。今後も学習の中で、学んだことを生かしながら、お互いを認め合う活動の充実を図っていく。</p> <p>学習が大切だと思っていたり、学習したことを普段の生活で生かそうとする気持ちは育っていて、学習に意欲的なので、しっかりと知識を定着させること、自分の考えを筋道を立てて説明することが必要だと分かった。</p> <p>また、学んだことをいかしながら、お互いを認め合う活動を続けていくことが大切だということも分かった。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">今年度の目標</p> <p style="text-align: center;">「ひと・もの・こと」と豊かにかかわり、対話をしながら、協働的に学べるような授業をする。</p>
<p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">目標を実現するための具体的行動プラン</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導や教科担任制を取り入れることで、しっかり知識を定着させたり、自分の考えを伝えたりすることができるようにする。</li> <li>・「ひと・もの・こと」と豊かな体験ができるように、教材の開発や吟味をする。</li> <li>・子どもたちが学習の見通しを持つことができるように、学習カードや学習環境を工夫する。</li> </ul>	<p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科にとどまらず、教科横断的な指導を行う。</li> <li>・対面式やICT機器の活用を効果的に取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やし、学びの定着をはかる。</li> <li>・気づきや問いを大切にし、子どもたちと一緒に授業を共同修正していく。</li> </ul>



# 少人数指導、教科分担制について

- 1、2年生は国語・算数の少人数指導
- 3年生は算数の少人数指導＋教科分担制
- 4～6年生は教科分担制



- どちらもチーム学年全体に関わることで、子どもたちの見取りが丁寧になりました。
- 学習指導だけでなく、児童指導面でも対応しやすくなりました。

## 豊かな心の育成推進プラン

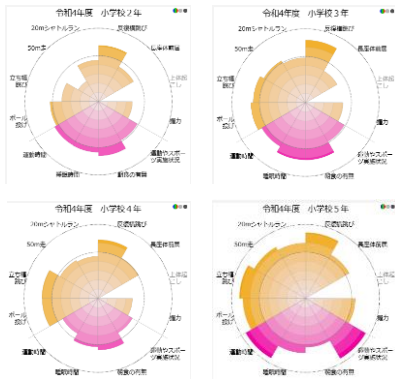
重点取組分野	具体的取組
<b>多様性の尊重</b>	①人権教育の充実を図り、年齢や性別、国籍や文化、障害の有無に関わらず、お互いを大切にする心を育てる。
担当 人権福祉委員会	②縦割り活動等を通して、自他を認め合う心、思いやりの心を育てる。

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>・学校生活に関するアンケート結果では、学習状況調査の結果では、自己肯定感に関する項目自分のことが大切だと思う児童が増えてきた。昨年度と比べて、児童の自己肯定感が高くなってきたからだと考える。それによって、周囲の人の気持ちを考えられるようになってきたと考える児童が増えていく。引き続き豊かな心の育成を目指していきたい。</p> <p>・月に一度のいじめ対策会議、いじめアンケート、クラスづくりアンケート等を計画的に行っている。引き続き、児童一人一人を丁寧に見ていく。</p> <p>・修学旅行や校外学習を実施して、児童の期待も高まってきた。児童にとって豊かな体験ができるように、学年に応じた体験学習を実施していく計画である。</p> <p>・外国籍や外国につながる児童が各学年に在籍する中で、児童の人権感覚が磨けるように日常生活中でも継続的に指導して、多様性を尊重し合えるように働きかけていきたい。</p> <p>・本校は登校班で登校している。登校班では5、6年生がリーダーとなり、毎朝低学年の子が安全に歩くことができるように気を配っている。その5、6年生の姿を見て、低、中学年の子ども達は、「優しい高学年の姿」を学んでいる。</p>	<p>友達との様々な関わりを通して、互いの違いやよさの認め合いができるようにする。 「わかる・できる」経験を増やし成長を感じ自己肯定感が高められるようにする。</p>
目標を実現するための具体的行動プラン	
<b>上半期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業では、教材を活用しながら自分の考えをもち、学級の仲間と対話をする場面を作って多様な価値観に気づき、自分の考えを深めていけるように授業を展開する。道徳の授業公開を保護者に向けて積極的に行う。</li> <li>・配慮を要する児童も落ち着いて過ごせるように、ユニバーサルデザインを取り入れて教室環境を整備する。</li> <li>・授業で「わかる」「できた」経験を増やして自己肯定感を高める。互いに学び合う活動を通して、自分と友達との違いやよさを認め合えるようにしていく。</li> <li>・大きな活躍(結果)だけではなく、当たり前のことをしっかり取り組む児童の努力を認め、教職員全体で子ども達を見て声をかけていく。</li> </ul>
<b>下半期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業では、教材を活用しながら自分の考えをもち、学級の仲間と対話をする場面を作って多様な価値観に気づき、自分の考えを深めていけるように授業を展開する。道徳の授業公開を保護者に向けて積極的に行う。</li> <li>・配慮を要する児童も落ち着いて過ごせるように、ユニバーサルデザインを取り入れて教室環境を整備する。状況に応じて臨機応変に対応する。</li> <li>・授業で「わかる」「できた」経験を増やして自己肯定感を高める。互いに学び合う活動を通して、自分と友達との違いやよさを認め合えるようにしていく。価値観の違いを大事にする。</li> <li>・大きな活躍(結果)だけではなく、当たり前のことをしっかり取り組む児童の努力を認め、教職員全体で子ども達を見て声をかけていく。教職員での共有を日常の話題にできるようにしていく。</li> </ul>

## 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
<b>健康教育</b>	①体を動かす楽しさに気付き、運動時間を増やしたり、柔軟性や持久力を高めたりしていけるように、「ストレッチ集会」や「なわとび集会」を行う。 ②児童運動委員会や学校保健委員会の活動を通して、運動経験を増やしたり、生活習慣を整えたりすることが大切だと気付けるようにする。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>・体を動かすことが好きで、休み時間は外遊びをして過ごす児童が多い。体育学習にも進んで取り組んでいる。放課後も公園で遊んだり、5月から再開した校庭開放の参加が増えてきたりしている。</p> <p>・コロナが落ち着いてくるにつれて、手洗い習慣が薄れてきていると感じる。また、休み時間に内遊びをして過ごす児童も一定数いる。</p> <p>・一日の運動時間や睡眠時間、朝食の摂取は市の平均を上回る学年が多い。引き続き、生活習慣を整えることや適度な運動に取り組むことのよさについて、学級指導や保健、家庭科の学習を通して伝えていく。</p> <p>・体カテストの結果を見ると、反復横跳びでは全学年で市の平均を大きく上回っていて俊敏性が高いといえる。しかし、長座体前屈や20mシャトルランでは、市の平均を下回っている学年が多い。「山田ストレッチ」の継続的な取り組みを行い、運動不足によるけがの予防として柔軟性を高めること、リズムダンスを通して持久力を高めることを目指していきたい。</p>	<p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">今年度の目標</p> <p>「山田ストレッチ」や「なわとび運動」を通して、柔軟性と持久力を高める。食事や睡眠など、生活習慣を整えることが健康な生活につながると気付く。</p>
	<p>目標を実現するための具体的行動プラン</p>
<p>上半期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山田ストレッチ」や「なわとび運動」に取り組みながら柔軟性や持久力を高め、けがをしにくい体をつくるとともに、体力の向上を図る。</li> <li>・学校保健委員会の取組として、校舎内での安全な行動の仕方に目を向け、けがなく安心して過ごすことのよさに気付けるようにする。</li> <li>・課題解決に向けて継続的に実践していけるよう、体カテストの結果を家庭と共有する。体育読本や健康手帳への転記をし、記録を積み重ねていけるようにする。</li> </ul>
<p>下半期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山田ストレッチ」や「なわとび運動」に取り組みながら柔軟性と持久力を高めるとともに、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わう。</li> <li>・運動を通して自分の成長を実感したり、仲間との連帯感を感じたりできるよう、運動委員会と連携して長縄集会を運営する。</li> <li>・生活習慣を整えることや適度な運動に取り組むことが健康な生活につながると気付けるよう、学級指導や保健、家庭科の学習を通して伝えていく。</li> </ul>



# 児童指導部会

## ○児童支援専任の紹介

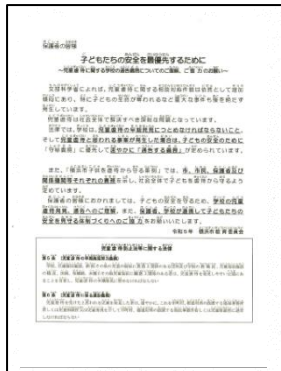
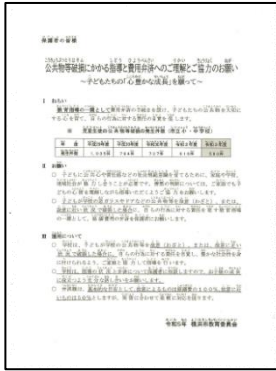
児童支援専任は、校内の児童指導を中心に、全校児童にかかわる仕事をしています。山田小の子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、児童や保護者との教育相談を行ったり、カウンセラーとの教育相談の連絡窓口になったりします。また、特別支援コーディネーターとして、学習支援をはじめ、支援が必要な場合に、担任や保護者・関係機関と連携するためのコーディネートを行っています。



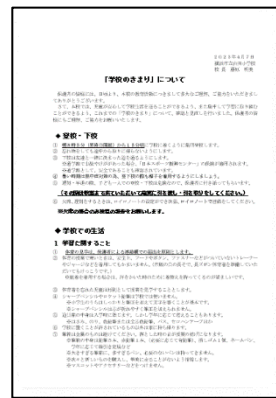
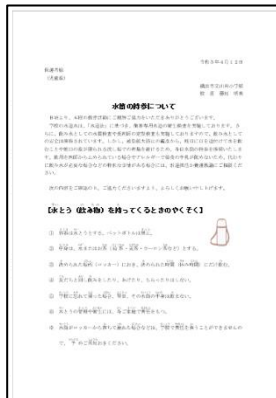
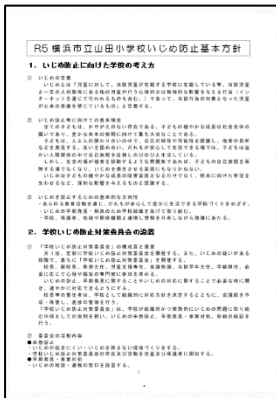
木村 恭子です！  
小さなことでも、気になることがあればいつでも声をかけてください！

## ○配付済みのお便りの確認

- ① 器物損壊にかかる指導と費用弁済へのご理解とご協力をお願い
- ② 児童虐待に関する学校の通告義務についてのご理解とご協力をお願い
- ③ 子ども同士による金銭の授受をしないために



- ④ いじめ防止基本方針
- ⑤ 水筒の持参について
- ⑥ 学校のきまり





# ICT活用について

- ▶ ICTを活用した授業
  - 1人1台タブレット端末の配付、使用
  - ロイロノートスクールの活用
  - 思考の共有の円滑化、明瞭化。動画・写真資料の活用
- ▶ 家庭学習時の補助的活用（7月端末持ち帰り開始予定）
  - デジタルドリルでの個に応じた内容の選択
  - 知識・技能の習得の促進
  - （学年の内容・予算をもとに検討）
- ▶ ICT環境整備
  - プロジェクターの拡充、設置

より充実したICT活用に向け、  
学校で取り組みを推進していきます。



## 山田小学校の保健について

### 健康診断

4月より順次、児童健康診断が行われています。所見のあったお子さんには、「受診のおすすめ」をお渡ししています。「異常なし」のお知らせは行っておりません。すべての結果は健康手帳に記入して、7月中旬にお渡しいたしますので、ご承知おきください。

学校での健康診断はスクリーニング検査として行われるものです。「受診のおすすめ」がお手元に届きましたら、ご家庭の判断で専門医療機関へ受診し、明確な診断を受けていただくようお願いします。

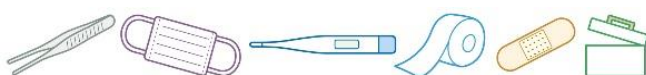
健康診断の結果は、学校の検査の報告として、疑いのある場合も含めて結果をお渡ししております。受診して「異常なし」「治療の必要なし」と診断される可能性もありますが、「早期発見・治療のための学校での集団健康診断」としてご理解いただけますよう、お願いいたします。

### 感染症対策

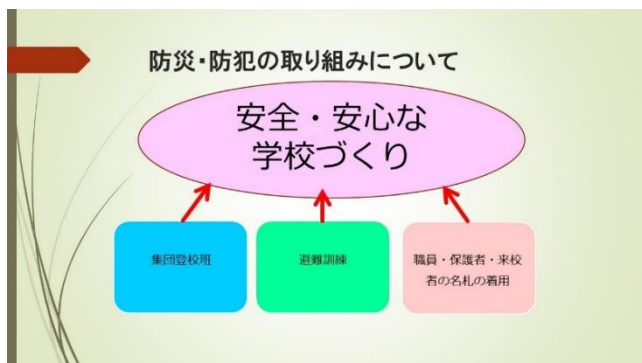
山田小学校では、ノロウイルス等の感染性胃腸炎やインフルエンザ、昨今では新型コロナウイルスなどさまざまな感染症に対し、学校保健安全法や横浜市で定められた対応マニュアル則って、適切に対応を行っています。

### 学校保健委員会

児童の健康安全の保持増進を図るため、児童・教職員・保護者・地域関係者などで話し合い、健康な生活を送ることができるように活動します。今年度は「けがの防止」に関するテーマを掲げて全校で取り組みをする予定です。



# 防災・防犯について



山田小学校では「安全・安心な学校づくり」に向けて様々な取組をおこなっています。

## 登下校の安全

どの児童も登校班に所属し、校外委員さん、見守り隊の方々の協力のもと、安全に登下校ができています。集団登校、複数下校など、児童生徒を極力一人にしないという方針のもと安全な登下校を指導しています。もし不審者に遭遇したら、「いかのおすし」の合言葉をもとに「ついていかない」「車にのらない」「おお声を出す（防犯ブザーの活用）」「すぐににげる」「大人にしらせる」ということを徹底しています。また、「子ども110番の家」やコンビニエンスストア、商店などが近くにある場合はそちらへ逃げ込むことなど、子どもたちが自分の身を自分で守れるように指導しています。

## 来校者用名札の使用

また、職員や来校者、保護者の皆様が名札の着用をすることが、防犯につながっています。他にも防犯カメラの設置や門扉施錠の徹底も行っています。万が一、部外者が侵入した場合に備え、毎年部外者対応の避難訓練を行っています。

## 避難訓練の実施

集団生活の中で全員が安全に避難することができるよう、毎年各種避難訓練を実施しています。事前にその意義を児童が十分理解し、一人ひとりがきまりを守る中で「自らの身を自ら守り、安全に行動できる」ことを基本にして指導しています。

### 令和5年度避難訓練年間計画

- 4月13日（木）（地震）
- 5月 2日（火）引き取り訓練
- 6月 1日（金）（地震）
- 7月12日（水）（火災）
- 9月 1日（金）（総合防災訓練）
- 10月27日（金）（部外者）
- 1月11日（木）（火災）
- 2月 6日（木）（地震予告なし）